

入居者インタビュー

「今が幸せ！悩んで決めた意味がわかった」・・・関本敦子様（81歳）

～ 入居して1年半、自分で決めてよかったと実感しています～

＜息子は同居しようと言うが・・・＞

私は、『子供に頼ろうと思わず、自分で生活できるときは自分で生活して、できなくなったら面倒を見ていただく』、そんな理想を描いていました。姑・母・主人・そして父を介護し、父とは最後同居しましたが、それぞれみな大変でした。一人息子は「僕らがいるのになぜ施設に行くんだ？入居したら世界が狭くなるのでは？」と心配し、施設入居の話にはあまり賛成の様子を見せませんでした。ところがそんな時、息子夫妻が私に内緒で佐倉（ゆうゆうの里）を見学。「思っていたのと違っていいところだったよ、元気な人が多くて、子供がいても入居される人がいるのがわかったよ」と言われました。一人で入居を考えずに、息子夫婦と一緒に考えていこう！と思うようになりました。



＜悩んだ挙句の選択＞

とはいえ我が家は、3代にわたって80年住み続けている思い入れのある持家。東京の便利な場所にあるので、手放すことには勇気がいりました。そして、自分は元気でまだまだ一人で大丈夫と思っていました。本当は元気なうちに身の処し方を決めるべきなのですが、自分のこととなると難しかったのです。そんな時、友人二人が、自分で将来を決められないままに要介護状態になってしまいました。そんな現実を目の当たりにして、「自分がしっかりしているうちに自分で将来を決めよう！」と思いました。ゆったりと、大樹に囲まれている“佐倉（ゆうゆうの里）”には最初に訪ねた時から“縁”を感じていました。入居者の笑顔もよく、息子宅からも近いので、ここだ！と思いました。

＜平穏の中に楽しみが広がる毎日＞



今日の収穫は『にんじん』

自炊をすることも生活の楽しみです。どんなに忙しくても料理を作ります。料理が大好きだから、食材集めも楽しみの一つです。里の近所の「地野菜の無人販売所」まで歩いて行って、新鮮な野菜が手に入ると嬉しくなります。その販売所の方や近所の方とも、すっかり顔なじみになりました。そして月に4～5回は今でも東京に行きます。でも、用事が終わったらすぐ帰ってきます。だんだん里が我が家になりました。

＜息子達とは近い距離感を楽しんでいます＞

昨年暮れから新年の誕生日にかけては、息子宅で過ごしました。普段はメールでのやり取りばかり、そんな距離感がちょうどいいんです。そうそう、昨年冬に、雪にすべってケガをしたことがありました。すると、里の職員さんが、保険証の準備や薬取り、処方箋の処理などを手際よくして下さいました。もちろん息子には、「気をつけて！」と怒られましたが(笑)、息子が近くにいっても職員さんがしてくれるので安心でした。

『子供に迷惑をかけたくなかった。いちいち心配してもらうのも気をつかうし、同居は大変。あの苦労はさせたくない。自分らしく自分で生きていく道を進めて良かった。』と関本様。悩みに悩んで入居したけど、入居してよかった！と、毎日生き生きされている関本様のお姿がとても素敵です。